

＼ 職場・学校・地域・家庭で活かせる ／

開催報告

自分が変わる 相手に響く コミュニケーション — “多様性”を人間関係に活かす行動のヒント —

今年度の「ダイバーシティ・スイッチ」(主催:三重県)では、世代や属性に関わらず、人間関係において価値観や考え方の違いからモヤモヤを抱えている方に向けて、違いを認め合い、思いやりのある関係性を築くために、自分自身の意識、行動を変えるヒントを学ぶ講座を開催しました。

第1回 12/11(月)19:00-21:00【オンライン開催】

「無意識の思い込み」に気づき、人間関係に活かす

自分や組織のもつ無意識の思い込みに気づき、周りに働きかけていくヒントを学ぶ講座をオンライン形式のワークショップで開催し、42名が参加しました。

【講師】瀧井智美(たきい・ともみ)氏/株式会社ICB代表



第2回 1/17(水)18:30-20:30【リアル開催(津市)】

違いを受け入れ「多様性」をつなぐ場のづくり方

県内での多様性をつなぐ場づくりの事例をうかがい、対話を通じて自分にできることを考える講座をみえ市民活動ボランティアセンターで開催し、23名が参加しました。

【事例発表】

金子文絵(かねこ・ふみえ)氏/一般社団法人kinari代表理事

鈴木麻里子(すずむら・まりこ)氏/三重県立美術館 学芸員

西岡奈保子(にしおか・なほこ)氏/保育園コンサルタント、おしごとアドバイザー、

空き家再生プロデューサー

【ファシリテーター】上松恵子(うえまつ・けいこ)氏/株式会社オフィスリブラ代表



第3回 2/20(火)19:00-21:00【オンライン開催】

多様性を活かす「心理的安全性」

「心理的安全性」をテーマにしオンライン講座を開催。67名が参加しました。「ダイバーシティ推進のためのヒント集」の活用方法も伝えました。

【講師】米山哲司(よねやま・さとし) / NPO法人Mブリッジ 代表理事



第4回 3/1(金)18:30-20:30【リアル開催(津市)】

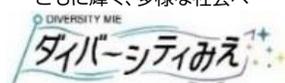
ダイバーシティを体感してみよう

ダイバーシティを体感する研修プログラムをみえ市民活動ボランティアセンターで開催し、21名が参加しました。

【講師】米山哲司(よねやま・さとし) / NPO法人Mブリッジ 代表理事



きらり
ともに輝く、多様な社会へ



ダイバーシティ(diversity)は、日本語に訳すと「多様性」です。三重県では、一人ひとりが尊重され、多様性が受容され、違った個性や能力を持つ一人ひとりがよい意味でお互いに影響し合うことで、相乗効果を社会に生み出す「ダイバーシティ&インクルージョン」の意味も込めて「ダイバーシティ」の言葉を使用しています。三重県では都道府県で初めてダイバーシティ推進方針を策定し、取り組みを進めています。

詳しくは… 検索

各回の概要

【第1回】「無意識の思い込み」に気づき、人間関係に活かす

ダイバーシティ推進の阻害要因として関心が高まっている「無意識の思い込み(アンコンシャス・バイアス)」をテーマに実施しました。アンコンシャス・バイアスはいつでも、どこでも、誰でも起こりうることです。講座では、アンコンシャス・バイアスの基礎知識、企業や自治体による取組みの例などを紹介。具体的なチェックシートを用いて自身をふり返ったり、グループワークでの意見交換を通じて周囲や組織の中に働きかけていくための行動のヒントを学びました。

参加者の声

- アンコンシャスバイアスと一言でまとめて考えていたが、多様な原因やタイプなどがあることが分かった。
- 自分のバイアスを常に点検し、他の人の感じていることをしっかり受け止めていきたい。

【第2回】違いを受け入れ「多様性」をつなぐ場のつくり方

県内でダイバーシティの視点からの場づくりをする3名から事例発表を聞き、感じたことを対話し、参加者自身が今後どう活かしていくかを考えました。いなべ市で「音声オフ」をルールとする筆談カフェを営む金子氏、三重県立美術館で障がいの有無に関わらず誰もが能動的に美術鑑賞できるプログラムを企画した鈴木氏、過疎が進む地域で世代や価値観の違いを越えて地域づくりに取り組む西岡氏などジャンルもアプローチの方法も異なる3名からダイバーシティ推進のヒントを学びました。

参加者の声

- 実際の活動者のお話が聞けて、ダイバーシティの深い部分を考えるきっかけになった。
- 人とつながることで新しいものが生まれることを感じた。
- まずは自分が「楽しむこと」の大切さを感じた。

【第3回】多様性を活かす「心理的安全性」

心理的安全性とは組織や人間関係の中で自分らしさを安心して出せることです。3回目では組織で多様な構成員が違いを活かし合いながら本来の力を発揮するためのヒントを心理的安全性の視点から学びました。また後半は昨年度県が作成した「ダイバーシティ推進のためのヒント集」を活用しながら、多様性を活かしてよりよい組織をつくるための具体的な行動を考えました。チャット等を活用して自分や他者の意見を可視化することで参加者は多くの気づきを得ました。

参加者の声

- 意見交換で自分にはない視点からの意見を聞くことができ、考えるきっかけになった。
- 個人と軸として考えるのか、社会を軸として考えるのかという視点を知り、今まで課題のとらえ方が大きく変わった。

【第4回】ダイバーシティを体感してみよう

言葉だけでは伝わりにくいダイバーシティを「組織変革のためのダイバーシティ OTD普及協会」のワークショップを通じて体感しました。ワークショップ(ゲーム)を体験することで、身近な社会のあらゆるところに偏りや不公平が潜んでいること、自分たちの当たり前がすべての人の当たり前ではないことを体感し、ダイバーシティの根底にある課題への気づきを深めるきっかけとなりました。

参加者の声

- 多数派がスタンダードだと決めてしまいがちなことに改めて気づいた。
- 様々な立場、視点でものをみることを意識する。当たり前と思っていることを一度考え直してみたいと思った。